

平成 28 年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議（緑区）議事録

開催日時	平成 28 年 9 月 7 日 午後 2 時 30 分 ～ 午後 3 時 50 分
場 所	緑区役所 会議室 3 A
出席者	<p>【座 長】 齊藤 達也 議員</p> <p>【議員：3 名】 伊藤 大貴議員、今野 典人 議員、高橋 正治 議員</p> <p>【緑区：30 名】 名取 正彦 区長</p> <p>林 昭宏 副区長</p> <p>小口 秀明 福祉保健センター長</p> <p>南 有里 福祉保健センター担当部長</p> <p>関戸 義仁 土木事務所長 ほか区関係職員</p>
議 題	<p>1 平成 27 年度 個性ある区づくり推進費 決算</p> <p>2 平成 28 年度 個性ある区づくり推進費 執行状況</p> <p>3 平成 29 年度 緑区予算編成の考え方</p>
発 言 の 要 旨	<p>1 平成 27 年度 個性ある区づくり推進費 決算</p> <p>(区長説明)</p> <p>【1 災害に強いまちづくり事業】</p> <p>今野議員：防災拠点訓練の予算は、どこに計上されているのか。</p> <p>室谷総務課長：(2)の防災関係機関連携強化事業のこの地域防災拠点です。</p> <p>今野議員：先日鴨居中学校の防災拠点訓練に参加したが、いざ避難所になった時のシミュレーションを毎回クイズ形式でやっている。体育館や格技場の使い方について、その地域の特性やこれまでの事例を参考に、ある程度の案を事前に作っておいたほうが良い。</p> <p>齊藤議員：防災関係機関連携強化事業の地域防災拠点備蓄品の在庫点検、資機材の保守点検及び修理とは、どんなことをやるのか。</p> <p>室谷総務課長：備蓄品は、必要なものをいつでも取り出せるように、年 2 回物品の種類や数量の確認をしています。資機材は、エンジンカッター等の機器の作動確認を 8 月に行い、不具合については、これから修繕にかかる予定です。</p> <p>齊藤議員：以前、防災拠点訓練に行った時、備蓄の医薬品に使用期限切れのものが多かったのですが、先日の長津田小学校で点検を提案したところ、結構期限切れのものが出てきた。医薬品の更新をしたらどうか。</p> <p>青木福祉保健課長：医薬品については、昔は医療救護拠点を薬剤師が巡回して見ていましたが、今は医療救護隊が回るようになっており、局で使用期限を確認しています。今回は学校と連携がとれず更新できていないと思われるので、更新について学校や地域と相談し地</p>

域で置いている薬も含めて確認していきたいと考えています。

齊藤議員：長津田小学校では、体育館に置かれていたので、地域の保管分が防災拠点の備蓄かは分からないが、捨てるより更新した方がよい。システムが変わっているのでも応急処置くらいはできるように、薬剤師会とも連携し確認してほしい。

【5 暮らしの衛生推進事業】

齊藤議員：防災拠点のペット避難の出張啓発の拠点数が増えて、非常に良いと思う。熊本や東日本でも、ペットの避難があり、避けて通れないことなので、獣医師会とも連携し引き続き進めてほしい。

【6 安全・安心な公園づくり事業】

伊藤議員：公園マップの増刷で、部数が不足したということは、ニーズの高かったという意味で良かったと思うが、詳細を教えてください。

桐山緑土木副所長：公園マップは、愛護会や自治会、区役所、地区センター、ケアプラザといった公共施設のほか、小中学校や商店街等に配布し、減りが早いところに補充するうちに不足となりました。

伊藤議員：去年の実績を受けて今年度も増刷が見込まれるが、その対応は。

桐山緑土木副所長：今年度は愛護会が増加したので、内容も更新予定です。

【9 あんしん子育てネットワーク事業】

伊藤議員：プレパパ・プレママ教室をケアプラザで行っているが、各参加人数はどう推移しているのか。市の統計では、北部4区は今後も人口が増え続け、緑区も微増していく。複数個所において、経年で見ると全体的に同じ傾向なのか、地域によって異なるのか。

山本こども家庭支援課長：行ける時期に合わせて参加可能なケアプラザを選択しており、地区の人数と一致していません。また、行きやすいケアプラザの利用実績が高く、定員オーバーでお断りする場合があります。

伊藤議員：経年変化の資料を作ってもらいたい。

山本こども家庭支援課長：後日、提出します。

【19 高齢者あんしんサポート推進事業】

今野議員：徘徊高齢者 SOS ネットワーク推進事業で、徘徊の可能性のある高齢者の登録者は85人とあるが、年間の徘徊件数はどれくらいか。

門脇高齢・障害支援課長：いなくなられた際に、一般には警察に問い合わせがありますが、区に捜索依頼されたのは、27年度3件でした。登録者については、ケアプラザや警察と連絡先の情報共有をしていますので、素早く対応できると思います。

今野議員：徘徊でいなくなった件数としては、非常に少ないという印象だが、

今後認知症の方が増えれば、その体制を啓発活動と共に更に考えたほうがよい。長岡京市では、スマホのGPS機能を利用した試みが行われたが、登録の必要があり、携帯し忘れが多いため、なるべく小さいものにしようとした結果、役所の管理している機器で現在地が分かるブルートゥースタグを導入し、大変参考になる事例だ。緑区でもいろいろな機器を利用したSOSに対する対応を検討してほしい。

【21 困難を抱える家庭の児童への支援事業】

伊藤議員：寄り添い型学習支援は、非常に大切な事業で、対象が生活保護世帯から困窮世帯に広がっている中、なぜ長津田・十日市場ケアプラザの2か所なのか、予算があれば他でもできるのか。

小田生活支援課長：予算のほか、受入法人や、中学生の行動範囲も考慮して実施することになります。

伊藤議員：寄り添い型学習支援事業は、局予算なのか。

小田生活支援課長：そうです。

伊藤議員：ふれあい交流事業は学習支援ではなく、ボランティアと児童の交流ということか。

小田生活支援課長：はい。学習支援事業を利用している児童を対象として実施しています。

伊藤議員：学習支援自体は局事業だが、環境が整わず学習習慣のない子どもが一定数いる状況を、現場を持つ区役所がセーフティネットとして局に届け、今後この事業の更なる充実に繋げるよう気を配ってほしい。

高橋議員：子どもの貧困対策に関しては、やってほしいことに対してのリターンをするのが役所の原則で、さまざまな皆さんのパーソナルサポートに軸足を置き、平成18年に内閣府が青少年のパーソナルサポート事業を始めた。市民協働条例の推進により、市民、区民の方々が区役所からお金をもらってただ事業をやるのではなく、自分たちが地域の福祉の担い手であるという協働の概念が生まれている。区民の方々に地域の力を発揮してもらえるように、逆に区役所側が協働の概念をしっかりと持ち、役所の事業も市民協働なのだと思えていく必要があると思うが、どうか。

名取区長：区役所からお金を出して何かをお願いする場合、スタートダッシュの時はいいのですが、ルーティン化してしまうこともあり、基本的には補助金の使い道も含めて、ある要望に対して可能性を見つけ支援していくことが予算の使い方だと考えております。貧困

対策においては、緑区では幸いにも自主的に取り組んでいる方々がいらっしゃるので、ネットワークを組み、議論をしながら一緒に考えて仕事を進めていきたいと思っています。

【23 みどり！まると応援事業】

齊藤議員：緑区遺産は、区制 50 周年と連動し現在の 8 か所から 50 か所を目標としてほしい。地元の人が意識していないものでも、周りから見ると緑区遺産にふさわしいものがあるので増やすように。申請用紙も準備しておく。50 周年の目玉として、ウォーキングマップと連動し緑区遺産マップとすれば形が残る。

名取区長：先生からご意見をいただき、後ほどの議員団会議で資料を配布しますが、その方向で進めさせていただきます。

【26 みどり地域まちづくり推進事業】

齊藤議員：中山駅南口バス経路の変更は、どういう効果があったのか。区民、商店街、利用者の反応があれば教えてほしい。

鵜田区政推進課長：バス事業者からは、走行性が良くなり、安心して通れるという評価をいただいております。歩行者からの苦情もなく、安全になったと思われま。かつての駅正面の通りは駐停車が多かったのですが、呼びかけもあり、実際バスが通ること、駅から出て左側の道は駐停車がかなり減ったと感じています。

【その他】

高橋議員：横浜子育てサポートシステムの実績はどうか。

山本こども家庭支援課長：確認して後ほど資料を提出します。

2 平成 28 年度 個性ある区づくり推進費 執行状況

(区長説明)

【1 災害に強いまちづくり事業】

齊藤議員：災害ボランティアコーディネーターの育成研修では、どのようなことをやっているのか。

室谷総務課長：区役所と社会福祉協議会で協定を結び区の要請を受け、災害時には社協により、ハーモニーみどりを拠点とした災害ボランティアセンターを設置し、連携し運営することになっております。ボランティアの方々をマネージするボランティアコーディネーターは現在 48 名が登録しており、座学の研修のほか、センターの設置や仕事の配分等のシミュレーションを年 1 回ずつ行っています。

齊藤議員：ハーモニーみどりにボランティアとコーディネーターが集まり、

役割分担をするという流れか。

室谷総務課長：そうです。

斉藤議員：社協の受入態勢によっては、ボランティアが滞留してしまう可能性がある。仕事は何があるか、各拠点との連絡をどうするかなど、登録しているコーディネーターにどれくらいやってもらえるかが鍵を握る。ボランティアの寝食やその場所の問題もある。地域のボランティア活動を行っている団体やグループとうまく連携して、ネットワークを作る取組を今後検討してほしい。

【13 青少年地域サポート事業】

斉藤議員：緑区子ども会連絡協議会のあり方について改めて議論したい。三保地区から新治小学校に通学する子は、新治小学校の子ども会になり、三保地区全体の中に難しい仕切りが出てきていると聞いている。連絡協議会に入っていない独立した子ども会があり、そこをどうするのか改めて議論したい。

【22 スマートイルミネーション】

伊藤議員：スマートイルミネーションが、臨海部とさまざまな連携を図るのは、これまでと同じか。

鵜田区政推進課長：これまでも作品の交換や、広報の協力をしています。

伊藤議員：今年のアーティストは、去年とは別の方か。

鵜田区政推進課長：一部は同じですが、なるべく多くのアーティストを登用したいと考えているため、主軸以外の部分では変えています。

伊藤議員：どのようにアートを地域に根差していくかが大事だと思う。長野県の小布施町では、長年芸術に対して取り組んできた結果として、あの町で育った若い世代の感性は、それ以前とは明らかに違うらしい。スマートイルミネーションを通して、子どもが勉強だけでなく感受性を身につけ、子どもも大人も芸術が身近に感じられると良いと思っている。

【29 きれいなまちづくり事業】

今野議員：駅さわやか活動事業の歩行喫煙防止啓発シートについて、市内では喫煙禁止にはなっていないため、防止としているのと思うが、地域の利用者の声はあるか。

小澤資源化推進担当課長：禁煙にしてほしいという声は何件かありますが、以前と比べてポイ捨てが減ってきたという声もあり、横浜駅・関内駅周辺のように喫煙を禁止するところまで至っていません。

今野議員：禁煙にするのであれば、喫煙コーナーを設けなければいけない。難しいかもしれないが、人を入れての取り締まりを各駅で行うこ

	<p>とも検討してもよいのでは。</p> <p>【32 地域振興事業】</p> <p>高橋議員：自治会加入促進モデル事業で、前回十日市場のデータを出してもらったが、どのような進捗があったのか。</p> <p>三瓶地域振興課長：今回、マンションの場合は入居前にオーナーさんに接触すること、アパートの場合は大家さんに接触することが必要だと分かりました。今は自治会長さんに協力してもらい、29年度に具体的に何をするのかを検討している段階です。</p> <p>高橋議員：新しく入ってきた方は、自治会に入るのが当たり前という人と、どんなメリットがあり、なぜ入らなければいけないのかという人の二手に分かれる。入らなくても生活できてしまうので、加入世帯が減っている。大家さんや不動産業者から働きかけてもらい、自治会加入は当たり前だという空気を作っていくことが大切だ。</p> <p>【その他】</p> <p>斉藤議員：防犯カメラの設置申請の手続きが煩雑らしいが、実際はどうか。</p> <p>三瓶地域振興課長：設置先との調整やプライバシーの問題があるので、地域全体の合意を得られるように設置基準を設けるなど非常に複雑です。7月25日締切の意向調査の段階で、神奈川県全体で160台しか認められないところに横浜市全体で513台の申請があり、なかなか難しいところです。緑区では、地域防犯カメラに手を挙げた自治会には、9月15日の提出まで個別に担当職員が説明をしながら手続きのサポートをしていきます。</p> <p>斉藤議員：緑区で数字が出たら教えてほしい。選考漏れの続出が予想されるので、できれば区独自でフォローできる体制を検討してほしい。</p> <p>3 平成29年度 緑区予算編成の考え方 (区長、副区長説明)</p>
<p>備 考</p>	<p>(資料)</p> <p>平成28年度第3回区づくり推進横浜市議員会議(緑区)次第</p> <p>1 平成27年度 個性ある区づくり推進費 決算</p> <p>2 平成28年度 個性ある区づくり推進費 執行状況</p> <p>3 平成29年度 緑区予算編成の考え方</p>